

5回目を迎えたケータイアプリ開発プロジェクト 理系大学と共同、ビジネスモデル提案

経営・渥美ゼミ



▲ 発表する村上さん(壇上右から3人目)

経営学部・渥美幸雄ゼミナールは、今年も理系大学2校(公立ほこだて未来大学、神奈川工科大学)との共同企画「ケータイアプリ開発プロジェクト」に取り組み(今回で5回目)。渥美ゼミからは3年次生8人が参加、3校の総勢29人が、文・理異なる専門分野を生かし、専大生がビジネスモデル提案、理系大学生がソフトウェア

開発という分担で展開。発表会は12月14日、本学生田キャンパスで協力企業の参加のもと開かれ、研究成果を披露した。プロジェクトの様子を、チームリーダーの村上今日子さんに寄せてもらった。

メンバーの「意識統一」に努力

村上 今日子 (経営3)

渥美ゼミナールでは今年も他校と共同でケータイアプリ開発プロジェクトに取り組みました。この約1年間のプロジェクト活動を通して、私は自ら考え、計画し、実行するという経験ができ、その過程で多くのことを学びました。

成長することができました。また合同合宿では、協力の企業様のご指導もいただき、直接プロジェクトの進め方やグループでの活動にアドバイスをいただくという貴重な経験をする事ができました。

また、専大内でのビジネスモデル構築の際は、人によって受け取り方や、考え方が違うためなかなか意見がまとまらず、夜遅くまで議論しました。このような苦勞を通して、私はみんなが頑張っている人は、必ず周りから評価されるといふことです。プロジェクトメンバーとして頑張ること、専大メンバーはもちろん、他校のメンバーも信頼してくれ、協力してもらえらうれしさを充実感を得ることができました。

私がプロジェクト活動で工夫したことは、多くの人と意見を交わすことです。実際に、計画し実行することとは簡単なことではありませんでした。すべてが計画通りにいかないことを痛感し、その時々でどうしたら良くなるか、先に進められ長できるような挑戦し続けたかを考えなければなりません。

現地で交流会や研修会

心理教育相談室 被災地支援活動に

東日本大震災や福島第一原発事故で東京・神奈川周辺に避難している方々の心のケアの無料相談を行っている心理教育相談室(室長 藤岡新治人 間科学部教授)では臨床心理士、臨床心理学を研究する大学院生らがさまざまなサポート・支援活動や研修会を展開している。

●南相馬市で子どもたちと交流
福島県南相馬市の託児所「きつぷくらぶ」を、11月22日、12月18日の両日、同相談室の臨床心理士2人と大学院生数人が訪問。障がいを持つ子どもたちや母親ら40人と交流した。ボランティア団



▲南相馬市でのクリスマス会
中学生まで。院生たちは竹馬をするなど子どもたちと元気に遊び、さまざまなストレスを抱える母親の話に耳を傾けた。12月18日は同地でクリスマス会を開催し、院生ら5人が参加。楽しい



▲豪から講師を迎え被災者支援研修会
11月25日には生田キャンパスで被災者支援研修会を院生ら10人が参加して開催。被災地視察のために来日したオーストラリアの心理学者リン・ペイジさんの講演を聞いた。リンさんは豪心理学会の資金援助を受けての来日。当日は、同国の自然災害、洪水、山火事など災害時のメンタルケアの実践について話した。世界的に大

漫画研究同好会



「星の航路」など10曲披露 マンドリンクラブ定期演奏会

マンドリンクラブ(枝光慶子代表・商4)の第45回定期演奏会が11月26日、東京・府中の森芸術劇場で開催された。写真。

マンドリンによるオーケストラ編成でメンバーとのセッションも活発に行っている。



19チームがソフトバレーで熱戦
2011年度体育祭(実行委員長 鈴木宗浩さん・商4)が12月3日、生田キャンパスで行われた。19チームがソフトバレーボールを競った結果、男女混合リーグがバレーボール愛好会、男子リーグはWATERFALLSがそれぞれ優勝した。

書道研究会が 鳳祭選抜展開催

書道研究会(前代表 金岡勇佑さん・商3、現代表 田代弘樹さん・商2)は、創立132年鳳祭で展示した作品の中から力作、約20点を選抜し、12月3日から19日までの17日間、サテライトキャンパスで選抜展を開いた。



学構内(9号館と10号館)にはがき回収ボックス4基設置のほか多摩区役所、明治大学、日本女子大学でも回収活動を行っており、活動の輪が広がっている。回収ボックスは、生田キャンパス近隣の商店にも設置されている。

1月27日まで集められたのはがきは、NPOハンガー」と話している。

途上国の食糧支援に S・I・Aが書き損じはがき収集

国際協力サークルS・I・A(中村紀子代表・摩区・3大学連携協議会)は、年賀はがきを書き損じ郵便はがきを収集し、特定非営利活動法人(NPO)に寄付し、発展途上国の食糧支援に寄与する活動を2008年度から行っている。



この活動は本年度、「多摩区・3大学連携協議会」が後援となった。本生田キャンパス近隣の商店にも設置されている。

1月27日まで集められたのはがきは、NPOハンガー」と話している。

フリー・ワールドに渡 し、換金されてパングラ デシユなど発展途上国の 学校給食などに利用され る。家に眠っている書き 損じはがき1枚がおかけ 1杯分になる。

担当の渡邊浩太さん(法1)は「私たちの活動をより多くの人たちに知ってもらい、途上国での国際協力の一助になればいい」と話している。



担当の渡邊浩太さん(法1)は「私たちの活動をより多くの人たちに知ってもらい、途上国での国際協力の一助になればいい」と話している。

担当の渡邊浩太さん(法1)は「私たちの活動をより多くの人たちに知ってもらい、途上国での国際協力の一助になればいい」と話している。